

活動グループ紹介コーナー

出西地区では「健康・スポーツ」「文化芸術」をはじめとして子どもから高齢者まで趣味や生きがい、健康づくりのためにグループや各種団体により多様な活動が行われています。

〇承認を受けるための4つの要件〇

- 地域と密接に連携
- 地域活動に協力
- 定期的な活動
- 地域住民に広くメンバーを募集

今回は、令和6年2月に新しく団体登録された「歴史社会情勢等放談・勉強会」（代表：樋野朝生さん）を紹介いたします。

歴史社会情勢等放談・勉強会は、毎月第3火曜日の午後を中心に、月1回コミセンの研修室で、講師をお招きして勉強会を開催されています。

「激動する世界と日本の現状が、何故そうなのか、歴史の流れを学び理解するための勉強会」として活動されていますが、時事放談的なお話であり、日頃の疑問を解消する集いの場でもあるようです。

令和7年6月17日（火）には、出雲市役所自治振興課のお二人を講師にお招きして、自治会未加入世帯のことについて、お話を聞いた後、活発な意見や質問が飛び交いました。



勉強会（6月17日）

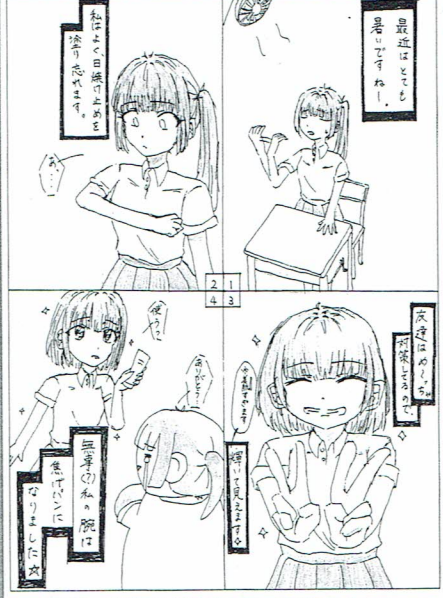
- 〇香典返し 金一封（届出順）
- 出西地区自治協会へ R7.8.7現在
- 青木 康一 様（下出西6）
 - 坪倉 幸一 様（千家4）
 - 青木 良人 様（中出西4）
 - 鎌田 英司 様（下出西6）
 - 多々納 広美 様（上出西2）
 - 多々納 均 様（中出西3）
 - 樋野 隆 様（神守2）
 - 小田川 淳 様（千家1）
 - （故人）多々納 茂 様（下出西2）
 - （故人）後藤富士雄 様（下出西8）
 - （故人）湯原美恵子 様（神立1）
- 〇寄贈
- 高木琉美子 様（ピアノカバー）
 - （故人）青木 康則 様（掛軸ほか）
- ありがとうございました。



- 出西陶芸クラブ 様（除草作業）
- 下出西寿昌クラブ 様（除草作業）
- 森 恒友 様（除草・割草）
- 出西グラウンドゴルフクラブ 様（除草作業）
- ありがとうございました。

第49号に掲載の内容に誤記がありました。お詫びして訂正いたします。
（誤）中島 進 様 → （正）中島 春正 様

中学生日記

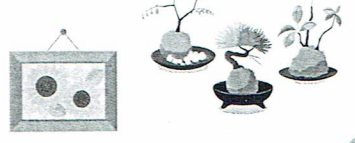


寄稿：斐川中学校2年生 岡田ひなたさん

出西地区文化祭の作品を募集します！

（文化祭は10月4日、5日に開催します）

- ・出品いただける方は、9月26日までに西出コミュニティセンターまでご連絡ください。
- ・（故人）青木康則様からご寄贈いただいた後藤玉雲作の掛軸等は、文化祭でご披露させていただきます。



編集後記

〇今号は、センターだより発刊50回を記念して、巻頭写真に西野野球スポーツ少年団の元気な子どもたちに参加していただきました。皆さん暑い中ご協力いただきありがとうございました。

〇今後とも、誌面を充実させるため「出西トビックス」などへの情報をお寄せください。お待ちしております。

（スタッフ一同）

令和7年8月20日 出西コミュニティセンター総務部発行
TEL:72-9204 FAX:72-9206 E-mail:shussai-cc@local.city.izumo.shimane.jp
【世帯数】 1,923戸 【人口】 5,275人 (R7.6.30現在)



出西コミュニティセンター多目的広場で陣を組む「西野野球スポーツ少年団5・6年生」の皆さん

「出西コミュニティセンターだより」は、年4回の季刊誌として、平成25年5月に創刊して以来、今号で50号を数えます。地域情報誌として、地域の皆さんに手にとっていただける内容となるよう総務部スタッフ一同、試行錯誤を重ねております。

また、これまで多くの方々に情報提供や、執筆いただきましたことに改めてお礼を申し上げます。

今後も、地域と皆さんをつなぐ広報誌として役割を果たせるよう、内容を充実させてまいりたいと思います。

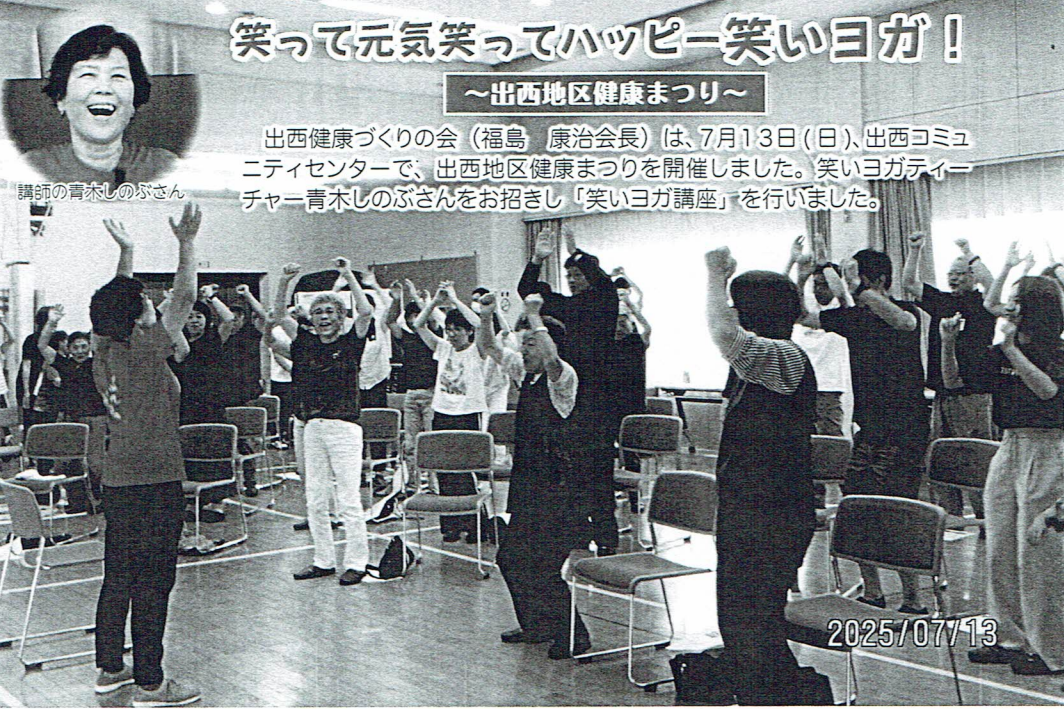
今号の掲載内容

- 出西の明日へ Let's go!1
- 笑って元気笑ってハッピー笑いヨガ2
- こにちは保健師です！3
- 出西トビックス、コミセン往来4
- 新・出西の歴史探訪5
- リレーエッセイ、出西コミセン夏の事業にフォーカス6
- 出西☆きらり①「江角 泰俊」7
- 活動グループ団体紹介8
- 4コママンガ「中学生日記」ほか

笑って元気笑ってハッピー笑いヨガ！

～出西地区健康まつり～

出西健康づくりの会（福島 康治会長）は、7月13日（日）、出西コミュニティセンターで、出西地区健康まつりを開催しました。笑いヨガティーチャー青木しのぶさんをお招きし「笑いヨガ講座」を行いました。



2025/07/13

笑いヨガは、誰でも簡単にできる健康体操です。A/I/I/Iと笑う動作（＝呼吸法）や、笑うための筋肉を動かすと、

- ・ストレス軽減・免疫力向上・運動不足解消
- ・心身リラックス・フレイル予防・認知症予防
- ・コミュニケーション向上・血圧、血糖値改善に、効果があるそうです。

講座の中で、青木さんは笑いとの深い関係や、笑いがもたらす身体への効果などについて、お話くださいました。



eスポーツ体験「太鼓の達人」

骨密度測定

血管年齢測定



ストロー

ロコモチェック

新企画 出西☆きらり

県内外で活躍中の出西にゆかりのある人を紹介していきます。

第1回 ファッションデザイナー 江角 泰俊さん
昭和56(1981)年生まれ・神守出身

出雲育ちのファッションデザイナーが考案した制服を身にまとった客室乗務員が世界の空を飛び回る。今から5年前、山陰中央新報に掲載され話題となった。手掛けたのは東京都渋谷区にアトリエを構える江角泰俊さん（44歳）。

江角さんは、日本航空（JAL）が2020年春から国内・国際全線で導入した新制服のデザインコンペを見事勝ち抜いた。異なる素材を組み合わせる「ハイブリッド」という手法を取り入れ、女性客室乗務員のワンピースでは、世界の航空会社でも例がない、袖が風船のように広がった「バルーンスリーブ」を取り入れた。職員の意見を聞き、業務上の動きや耐久性を考慮しつつデザインを模索。これまでにない革新的なデザインを制服に取り入れることに力を入れた。

ファッションデザイナー誕生

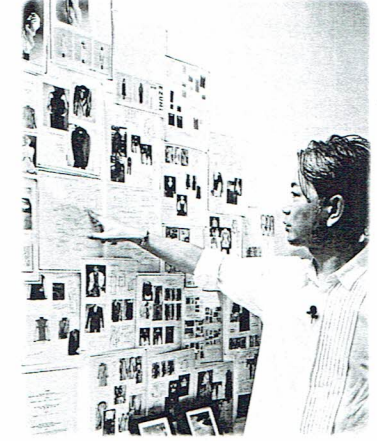
昭和56（1981）年に広島県で生まれ、平成7（1995）年から島根県出雲市斐川町神水で育った。小さなころサッカーにいきなりハマっていたが、人生のテーマにファッションを選んだのは18歳の時。女性服のスタイリングに関心を持ち、関西の短大（宝塚造形大学）のファッションコースへ進学。デザインを学び、ここでさらに服づくりの世界に魅了され、デザインに夢中になっていった。その後、憧れのデザイナー、アレキサンダー・マックイーンについて調べ、英国ロンドンの名門セントラルマーティンズ美術学校に入学する。異国での挑戦に不安もあったが、父・弘道さんの「やるからには一番になれ」という一言が背中を押した。

卒業後は、英国のトップブランドで経験を積み2010年に帰国。自身のオリジナルブランド「ヤストシ エズミ」をスタートする。

2015年自動車メーカー・フォルクスワーゲンの国内販売店、2017年化粧品ブラン

ド「Shu Uemura（シュウ ウエムラ）」の制服も手掛け、デザイナーとしての評価を確立した。

2018年秋冬コレクションからブランド名を「EZUMi」に改名。競争の激しいファッション業界を走り続けた。



江角 泰俊さん

ファッションと建築の融合

新型コロナウイルスの影響でリアルなショー以外の発表方法を模索するブランドが多くなり、コレクションの要素や制作までのプロセスをどのように見せることができるかを考えた。その頃に出会った、建築倉庫ミュージアムの初代館長でARCHI HATCH代表を務める徳永雄大氏の協力を得て、3D・VR動画が撮影できるマターポートを駆使した3Dポートレートショーを完成させた。

2022年「被覆のアナロジー組む衣服／編む建築」建築家隈研吾氏とともに、東京大学インターメディアテクによる特別展示を開催した。

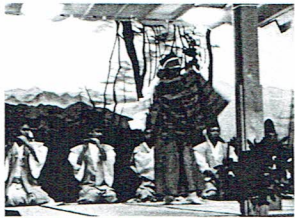
自身のブランド「EZUMi」の立ち上げから15年。

「理／LOGIC」にかなったものづくりをブランドコンセプトに掲げてきた。

デザイナー江角泰俊氏の挑戦は今後も続いていく。

写真提供：江角 弘道 様
文責：門脇 さとみ

出雲市無形文化財 氷室神楽保存会 樋野 實 (氷室4)



「四方清」をする樋野實さん(写真中央)

氷室神楽は、約200年前から斐川地域の南、神名火山(仏経山)のふもとに脈々と舞い継がれ、戦争や社会的変化を背景に中断と再開を経験しつつも、先覚者たちの努力によって今日まで伝承されてきました。

その明確な起源や歴史はわかっていませんが、文政5年に書き写した「氷室神楽神能記」が現存しており、地元の有志が出雲市の中野あたりに舞を習に行き、囃子は莊原と神立の神職等の影響を受けたとされています。

その後、地元の諸氏に加わり、神楽連中として稽古を重ね、里神楽として一つの流れを編み出したと推察されています。

現在は、氷室地区を中心とした約20人の会員で保存会を組織し、七座・能舞の12段と木彫りの神楽面、衣装、奏楽を継承しています。

また、ご縁があり、アメリカの女流画家マリオン・ピントさんから、平成2年に贈られた神楽幕「ひもろぎ」も貴重な財産です。

舞の特徴は、神事色の濃い出雲神楽を継承するもので、独特な神楽囃子に合わせて、派手さはないものの、狭い場所でもあたかも広場で舞うような足さばきと所作にあります。

近年は、会員の高齢化および生活や働き方の多様化から、継承する環境も厳しくなりましたが、舞い継がれてきた貴重な文化を絶やさぬよう、今後も努力していく次第です。



木彫りの神楽面

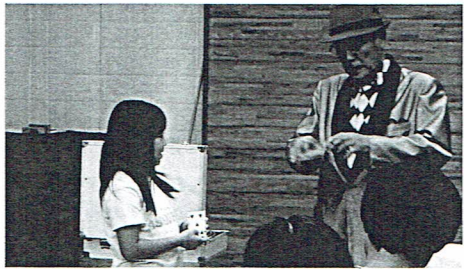
コミセンで開催の夏の事業にフォーカス



いつもの暮らしにも役立つ! 防災術、防災クッキング
夏の子も体験教室(7月25日)
参加者は、災害時に備え炊飯器を使わず湯煎でご飯を炊き、火を使わずにおかずを作りました



夏休み小学生陶芸教室(7月26日)
コミセン陶芸クラブの主催で、陶芸教室を開催。
参加者は、板の上で皿や入れ物を自由に作りました



ふしぎで楽しいマジックショー(7月26日)
山陰中央マジッククラブの主催でマジックショーを開催。あっと驚くマジックが盛りだくさんでした



出雲五色天神体験教室(8月2日)
更生保護女性会出西支部の主催で、斐川でこや連の皆さんを講師に、土人形に一人一色づくし色付けをしました

こんにちは保健師です!



北尾保健師

皆さんこんにちは。斐川行政センター市民サービス課、保健師の北尾萌葉です。今年度から出西地区を担当させていただきます。

今年度、出西地区では「適切なカロリー摂取」、「良い睡眠による心の健康づくり」に力を入れて活動をしています。今回は、睡眠についての情報をお伝えします。

下にあるのは、大人向けの情報です。子どもは大人よりも多くの睡眠時間が必要で、年齢によって適切な睡眠時間が異なります。1~2歳は11~14時間、3~5歳は10~13時間、小学生は9~12時間、中学・高校生は8~10時間が目安とされています。

良い睡眠は、体と心の健康につながります。質の良い睡眠をとって、元気に過ごせるようにしましょう。

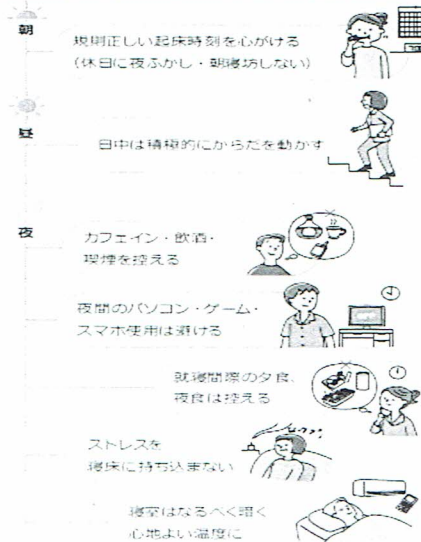
睡眠について、こんなことはありませんか?

- 睡眠時間が足りていない
- 朝目覚めた時に休まった感覚がない
- 日中に眠気が強い
- 寝る前や寝床でデジタル機器を使う
- ストレスが強く、日中に解消しきれない
- 食事時間が不規則だ
- 夕方以降によくカフェインをとる
- 喫煙や寝酒習慣がある
- 睡眠環境、生活習慣、嗜好品のとり方を改善しても眠りの問題が続いている

当てはまる項目が多い人は要注目!
生活習慣や睡眠環境を見直してみましょう!

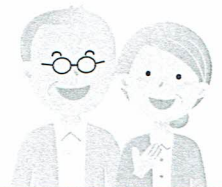
良い睡眠のために できることから始めよう

- 6時間以上の睡眠時間を確保する
- 睡眠体感を高める



令和7年度の出西地区健康目標

- ①塩分、糖を抑えてうす味に心がけ生活習慣病を予防しましょう。
- ②1日15分以上は歩いたり運動をしましょう。
- また、ラジオ体操など、地域ぐるみで運動に取り組みしましょう。
- ③健康診断・がん検診・健康チェックをしましょう。



出西トピックス

池田一さんが島根県議会議長に就任

島根県議会議員の池田一さん(64歳、中出西)が、6月9日に開催された島根県議会の定例会初日の正副議長選で、議長に選ばれ、就任されました。



池田 一さん

池田さんは、大学卒業後、関東圏の流通業に勤務したのちUターン。平成19年に島根県議会議員に初当選して、現在5期目。

農水商工、文教厚生、総務委員会委員長、島根県議会副議長などの、要職を務めてこられました。出西地区から初の県議会議長の誕生です。人口減少対策や物価高騰対策などが山積みする中で、第2期島根県創生計画のかじ取り役として、益々活躍されることを期待しております。

錦田剛志さんが島根県公安委員会委員長に就任

島根県公安委員会は7月2日、藤田和雄委員長の任期満了に伴い、新委員長に錦田剛志委員(56歳、神立)が、7月12日付で就任されました。



錦田 剛志さん

錦田委員は、令和5年7月に県公安委員に就任。委員長の任期は、7月12日から令和8年7月11日までの1年間です。

錦田委員は、國學院大学文学部を卒業後、平成4年に県教育庁に入庁。県立古代出雲歴史博物館学芸員兼専門研究員を務められ、平成21年に同庁を退職。万九千神社宮司、出雲市文化財保護審議会委員、同市教育委員などを歴任されました。

神社本庁中国地区教化講師なども務めてこられました。

直江駅の更新工事

西日本旅客鉄道株式会社では、全社的に駅の運営体制の見直しを行っており、直江駅についても築80年以上を経過し、駅舎やホーム待合所、ホーム屋根の撤去が計画されています。

直江駅を利用している各地区の自治協会で「JR 直江駅整備促進協議会」を組織し、駅利用者の利便性を損なうことがないよう要望書を提出しました。



赤色枠はJR管理、緑色枠は市管理
出雲市総合政策部交通政策課の資料より抜粋

コミセン往来

運営委員会・事業委員会合同研修
松江市宍道公民館~島根県立博物館を訪問

6月5日(木)、20代、30代が地域活動に主体的に取り組み、魅力ある事業を展開されている松江市宍道公民館と「河井寛次郎と民藝の仲間たち」が開催されている島根県立博物館を訪問しました。

宍道公民館は平成28年3月に現在の宍道駅近くに完成、移転しています。松江市役所宍道支所に子育て支援センターとともに併設されている利便性の高い素晴らしい施設を見学させていただきました。

また、持田館長と公民館事業部の渡部部長に公民館の取り組みについて紹介いただき、30代の渡部部長からは「得意なことを依頼することが公民館活動に関わってもらうきっかけになっている」など、これからの地域活動の担い手育成のヒントをいただきました。



宍道公民館の持田館長(写真左から2人目)から説明を聞く参加者

新・出西の歴史探訪②

「野鍛冶」がいた時代

勝手の良い優れた農具を作り出す

かつて出西にも、農村の発展に大きく貢献した「野鍛冶」と呼ばれた人たちがいました。「農鍛冶」とも言いました。小学校唱歌で歌われた「村のかじやさん」のことです。

田畑の状況や使い勝手に合わせて農具や包丁などの生活用具を求めに応じて丹精込めて作り、修理にも快く応じていました。

出雲地方独特の鉄に「窓鉄(まどくわ、まどが)」、特に「四子鉄(よっごくわ)」があります。明治時代後半から湿地帯の斐川では、米の増収対策として「高畝づくり(田麦掘り)」が奨励されましたが、大量の土を掘って盛るために「土かかりが良くて軽い」鉄が求められ、誕生したのが四子鉄です。



野鍛冶が支えた「高畝づくり」
【写真典拠】「出西ふるさと読本」



四子鉄(よっごくわ)
【写真提供】荒神谷博物館

野鍛冶たちは、十年もの長くて厳しい修業期間を経て、四子鉄のような複雑な型の農具でも一本の地鉄(じがね)を鍛え、鋼を接合し勝手の良い優れた農具を作り出しました。山手の田畑用の鉄は粘り強く、平地の砂地用には硬く冴えの良ように、鋼の厚さ、型のそり具合等、焼き入れ、焼き戻しなどに工夫を凝らしました。

こうした実用第一の仕事で、出西創業メンバーの多々納弘光さんは「実用がかなえば適うほど美しさが深々と宿る」と文化財としても高く評価し、鍛冶を「工人」と崇めました。

出西で活躍した野鍛冶たち

戦後、出西では3人の野鍛冶が活躍していました。中出西の青木幸一郎さん、下出西の青木隆義さん、原平三さんです。青木さん2人は土地改良が終わっ

た昭和40年代後半に転廃業となりました。青木幸一郎さんは7代目。初代の鉄右工門さんは、文化文政年間(1800年代)に操業していました。隆義さんは初代です。

戦前まで遡ると、神立の青木秋次郎さん、氷室の樋野重五郎さんが野鍛冶を営んでいました。

野鍛冶の思いをつなぐ

このほど、原平三さんの息子で鉄工会社を営む原弘至さん(54歳)を訪ねました。

平三さんは現出雲市西代町での修業後、20年に及ぶ野鍛冶を経て昭和50年頃、下出西に移住。隣接した工場で鉄骨加工を柱に、鍛冶も継続しました。世は既に大型農機具時代でしたが、四子鉄、踏切り(筋つけ道具)など未だ手作業の農家の要望に丁寧に応えてきました。

四子鉄も1日1丁のペースで作りました。出西周辺では「最後の野鍛冶」でした。会社は、平成18年に斐川西工業団地に移転。弘至さんは鉄骨建築の道へと事業を拡大しますが、鉄を思う父のDNAをしっかりと引き継いでいます。野鍛冶の末裔たちで組織する「斐川鉄工会」に誘われ、毎年、鉄の神様を祭る旧広瀬町の金屋神社にお参りし、様々に専門分化した鉄を扱う産業の繁栄を祈っています。

社屋の前に平三さんが愛用したベンチハンマーがオブジェとして飾られています。

歴史上、鉄器の登場とともに鍛冶仕事が必要となり、野鍛冶がいなければ、世の中が成り立たない時代があり、それも想像以上に長かったのです。

子どもたちには、ぜひ、野鍛冶の存在に目を向け、この出西、斐川にも業態が変わっても鉄のものづくりが脈々と受け継がれ、私たちの暮らしを豊かにしていることを学び取ってほしいと願っています。



野鍛冶の歴史を伝えるベンチハンマー

【参考文献】斐川町企画財政課『広報ひかわ縮刷版(平成編上巻)』
(文責:高橋孝治)